

「おばあちゃんの百か日」

小学5年 鳶本 雄斗

ぼくは、2年前におばあちゃんが亡くなったことをきっかけにお仏だんに手を合わせてお経をおつとめする機会が増えました。おばあちゃんの四十九日の七日参りはいつも夜におつとめしていましたが、お参りにはいつもたくさんの方が来てくれるのがうれしかったことと、お参りの時に必ず手伝ってくれるおばあちゃんのお友達に感しゃのきもちがわきました。

みんないそがしくしていると思うのに、なぜこんなに手伝ってくれるのだろうと思っていました。でも、その答えはすぐにわかりました。それは、おばあちゃんがいつもお友達にやさしい気持ちで接していたからです。おばあちゃんのお通夜やおそう式の時にも、とても多くの方が来てくれていました。それもおばあちゃんが明るくて、一緒にいて楽しくて、だれとでもすぐに友達になって親切にしてきたからだということに気がつきました。ぼくもおばあちゃんみたいにだれにでもやさしくできるような人になりたいと思うようになりました。

そして、ぼくはおばあちゃんのお仏だんの前でおつとめができるようになったことで、もう1つできるようになったことがあります。それは恩徳讃をピアノでひけるようになったことです。最初はお母さんにやってみたらと言われてできるか心配だったのですが毎日練習をしていたらできるようになっていました。そして、おばあちゃんの百か日の日に、ぼくはピアノ伴奏でおつとめが終わったあとに、お参りに来てくれた人たちと一緒に恩徳讃を歌って、おばあちゃんのことを思い出してさみしい日でしたが、おじいちゃんとお母さんと、そして弟のりょうたと手を合わせてお参りをしました。